

「東北ろっけんパーク」写真Ⅱは仙台市中心部のアーケード街に二〇一二年五月にオープンしました。市による委託事業「中心部商店街活性化プロジェクト」を基盤とし、市経済局のステッパアッププランに沿って、東北六県の「物販」から「起業創業」などのビジネスまでを支援するものです。週末は物産市やイベントの開催、平日は被災した方々による「復興支援グッズ」と呼ばれる手仕事品や、被災企業の復興商品を販売しています。また、オープン当初は「復興ギャラリー」として、仮設商店街の紹介パネルを展示し、

東北復興日記

114



東北ろっけんパーク復興支援グッズ管理アドバイザー 齋藤由布子さん

6県から魅力ある商品

復興状況や観光情報を発信してきました。グッズの出店者は百五十店を超え、アイテム数は八百種類以上にのびります。それだけ集まる施設はほかになく、一般客や観光客にとどまらず、自治体職

員、復興庁など、さまざまな関係機関の視察も多くなりました。私自身、震災直後は各地域の避難所への支援活動をしていましたが、東北ろっけんパークの「被災地の商店街と仙台市中心部商店街を繋ぐ」という事業に共感し、オープンから今の仕事に就きました。その後も取材のため被災三県のほとんどの仮設商店街を訪ね歩き、東北の玄関である仙台市から、お客さまをお迎えからお見送りする中で、「東北の今」をお伝えしてまいりました。

しかし、震災後三年八カ月が過ぎ、記憶の風化のほかに視察数や来場者数、売り上げも減少傾向であることは否めません。それは当初より想定していませんでした。それだけに特別ではなく、より一般的な観光情報や起業創業支援の求めに対して、元氣と活気を発信していきたいと思っています。

「被災地だから」行きたいのではなく「魅力ある街だから」行きたい、「被災者が作っているから」ではなく「すてきな商品だから」買いたい、とっていただけるように。これからも東北の新しいまちづくり、ものづくりを支援し、全国に発信してまいります。



この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。